

IV－35 国際化の時代に対応した都市のサインに関する研究

岩手大学工学部 正会員 安藤 昭
岩手大学工学部 正会員 赤谷 隆一
岩手大学工学部 ○学生員 上田 亨

1. はじめに

ここ数年来、わが国の外国人居住者は飛躍的に増加し、現在では100万を越える外国人が中央・地方において地域社会の一員として生活している。また、観光やビジネス等で短期間滞在する外国人も多く、現代は「国際化の時代」といわれている。

昭和62年に、西暦2000年を目標年次として、第四次全国総合開発計画（四全総）が策定されたが、その基本的目的にも、「国際化の時代に対応するために、多極間を多様な交流ネットワークで整備する。」ということが、揚げられている。このように今日は、国際化時代に対応した環境整備が必要な時代であるといえる。そして、このような観点からの環境整備は、将来の国土像に新しい内容をもたらしうる可能性を秘めているといえよう。

本研究は、国際化の時代に対応した環境整備、つまり国際的視点を取り込んだ環境の育成を計るための基礎的研究として、都市のサインに着目し、図－1のフローチャートに示すような研究の進め方で、現状を調査分析して、国際化の時代に対応した整備課題を追求しようとするものである。

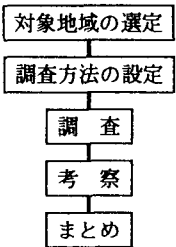


図-1 研究のフローチャート

2. 調査地域および調査の方法

岩手山や北上川などの豊かな自然に恵まれ、「杜と水の都」とよばれている盛岡は、約400年前に不来方城（現在の岩手公園）の城下町として始まり、栄えてきた。現在は、東北新幹線や東北自動車道も開通して、北東北の拠点都市として発展し、「'93世界アルペン盛岡・雫石大会」等の国際的イベントが行なわれるなどして、外国人の訪問者も増えてきている。今回は、この盛岡市内でも公共性が高いと思われる商業地域を対象地域として、主要街路及び公共施設における全ての都市のサインの写真撮影を行なう。また、それによって得られたサインの写真を、表－1に示すような使用目的・機能・表示方法の面からの分類を行い、都市のサインの実態を把握する。なお、今回は公共サインを調査対象とし、屋外公告・看板等の商業サインは調査対象から除外する。

表－1 分類項目及び概要

- 使用目的による分類
 - ① 公共サイン
 - (a) 市街地サイン 街をわかりやすく案内し、その街への理解も深め、街の魅力をアピールする。
 - (b) 自動車用サイン：道路標識設置基準に準じ自動車の円滑な誘導をはかる。
 - (c) 公共施設サイン 原則として各施設等で計画するものだが、都市景観に影響を与えるものは、相互の調整や一貫した整備が必要である。
 - ② 商業サイン
- 機能による分類
 - ① 空間の認識に関するサイン
 - (a) 案内機能：空間の構成を示す面的な情報
 - (b) 誘導機能：方向や行く先を示す面的な情報
 - (c) 記名機能：場所を特定する点的な情報
 - ② 空間の理解や運営に関するサイン
 - (d) 禁止・規制機能：安全の管理や利用の円滑化
 - (e) 説明・解説機能：内容の紹介や理解の促進
- 表示方法による分類
 - ① 和文単記表示
 - ② 和文・欧文併記表示
 - ③ 絵又は絵文字単記表示
 - ④ 和文・絵又は絵文字併記表示
 - ⑤ 和文・欧文・絵又は絵文字併記表示

3. 都市のサインに関する法体系

現在、都市のサインのなかでも道路上の公共サイン（道路標識）は、道路法において道路の付属物として規定され、その種類、様式、設置場所は「道路標識、区画線及び道路標示に関する命令」（標識令）に規定されており、道路標識を整備する際に考慮すべき整備水準、設置体系、設置方法等についての技術的基準は、道路標識設置基準に規定されている。

また、屋外公告・看板等の街路景観に影響を与える商業サインは、屋外公告物法で定められた基準に則り、

各地方自治体それぞれ独自の方式により、規制・誘導が行なわれている。

4. 調査結果及び考察

調査によって抽出した496個のサインを、表－1で示した分類項目に従い分類すると表－2のようになる。ただし、表－2中の番号①～⑤は、表－1における「表示方法による分類」の番号①～⑤に対応する。

表－2からもわかるように、使用目的によるサインの分類では、自動車用サインが最も多く全体の約47%で、ほぼ半数であった。さらに、自動車用サインの機能ごとの内訳をみると、その多くが禁止・規制機能である。これらは、自動車の円滑な誘導をはかる目的で、多くの街路にさまざまな規制（駐車禁止・制限速度等）を設け、このことを伝えるサインが立ち並んでいることが原因と考えられる。しかし、現状ではこれらのサインが交差点付近で過多となり、街路景観を乱すだけでなく、一目で全ての情報を把握することが難しく、本来の目的さえも果たせなくなって来ているのである。

表示方法によるサインの分類に着目すると、自動車用サインの多くは、「標識令」の規定により、欧文併記表示が進んでいるが、地名欧文訳が他の機関で作った市街地サインと異なるものもあった。また、ドライバー以外の一般市民や観光訪問者等にとって重要である市街地サイン、公共施設サインは、和文単記表示となっているものが多く、国際化の時代に十分対応していない。

5. まとめ

「国際化の時代に対応した都市のサイン」における整備課題として、本研究により得られた結果を要約すると以下のとおりである。

- 1) 都市のサインの総合的な管理：現在、国または地方自治体の関係各機関によって、それぞれに設置されている都市のサインを、地域レベルで管理・調整し、個々のサインにおける表示名称等の不一致を防ぐ。
- 2) 都市のサインのシステム化：現在の都市のサインは、個々のサインがそれぞれ独立しており、サイン相互が関連して働きあうといったシステム的な表示が少ない。よって、地域レベルで都市のサインを総合的にシステム化する。
- 3) 設置方法の見直し：都市のサインは、支柱などを用いて設置固定させているわけだが、その支柱に対してサインを固定する金具が剥出しの場合が多く、街路景観を繁雑にしている。よって、後付けのサインでもきれいに取り付けられるような支柱の開発が必要である。
- 4) 表示数の抑制：今回の調査では、自動車用サインの禁止・規制機能が最も多く抽出されたわけだが、これらはサインの表示を根本的に変える（例えば、基本的に市街全域を駐車禁止とし、その規制が除外される地点にのみサイン表示をする）ことによって、表示数を減少させることが出来るであろう。
- 5) 設置場所の見直し：サインは、人の通行する動線上から見やすいことはもちろんだが、表示するタイミングが問題となってくる。各サインがそれぞれの機能を十分に発揮できるような場所の選定が、必要である。

今後、外国人を対象とした調査を行う等して、国際化の時代に対応した都市のサインの整備課題をさらに追求したいと考える。

参考文献

1) パブリックデザイン事典編集委員会編：パブリックデザイン事典，産業調査事典出版センター，p230～p277；1991
2) 土木学会編：街路の景観設計，技研堂出版，p190～p193，p232～p235；1985

表－2 分類結果

		案内機能		誘導機能		記号機能		禁止・規制機能		説明・解説機能		合 計	
		個数	割合	個数	割合	個数	割合	個数	割合	個数	割合	個数	割合
市街地サイン	①	0	0.0%	7	1.4%	8	1.6%	3	0.6%	18	3.6%	36	7.2%
	②	0	0.0%	12	2.4%	2	0.4%	0	0.0%	0	0.0%	14	2.8%
	③	0	0.0%	0	0.0%	2	0.4%	0	0.0%	0	0.0%	2	0.4%
	④	3	0.6%	0	0.0%	11	2.2%	1	0.2%	3	0.6%	18	3.6%
	⑤	12	2.4%	2	0.4%	2	0.4%	0	0.0%	4	0.8%	20	4.0%
	計	15	3.0%	21	4.2%	23	4.6%	4	0.8%	25	5.0%	68	13.6%
自動車用サイン	①	0	0.0%	2	0.4%	1	0.2%	2	0.4%	1	0.2%	6	1.2%
	②	0	0.0%	13	2.6%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	13	2.6%
	③	0	0.0%	0	0.0%	21	4.2%	72	14.4%	0	0.0%	93	18.6%
	④	0	0.0%	1	0.2%	8	1.6%	108	21.6%	0	0.0%	117	23.4%
	⑤	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
	計	0	0.0%	16	3.2%	30	6.0%	182	36.4%	1	0.2%	231	46.2%
公共施設サイン	①	0	0.0%	11	2.2%	22	4.4%	6	1.2%	19	3.8%	58	11.6%
	②	0	0.0%	10	2.0%	5	1.0%	0	0.0%	4	0.8%	29	5.8%
	③	0	0.0%	7	1.4%	2	0.4%	0	0.0%	1	0.2%	10	2.0%
	④	4	0.8%	0	0.0%	5	1.0%	0	0.0%	7	1.4%	16	3.2%
	⑤	1	0.2%	20	4.0%	10	2.0%	0	0.0%	0	0.0%	31	6.2%
	計	5	1.0%	48	9.6%	44	8.8%	6	1.2%	31	6.2%	134	26.8%
計	①	0	0.0%	20	4.0%	62	12.4%	11	2.2%	40	8.0%	133	26.6%
	②	0	0.0%	55	11.1%	14	2.8%	0	0.0%	7	1.4%	76	15.2%
	③	0	0.0%	7	1.4%	25	5.0%	52	10.4%	1	0.2%	85	17.0%
	④	7	1.4%	0	0.0%	24	4.8%	109	21.8%	10	2.0%	151	30.2%
	⑤	13	2.6%	22	4.4%	12	2.4%	0	0.0%	4	0.8%	51	10.2%
	計	20	4.0%	105	21.0%	137	27.4%	172	34.4%	62	12.4%	496	100.0%